◎

ハンドヘルドレーザースキャナ
PDC-817

取扱説明書

（DOS/V キーボードインターフェース）



日本システム開発株式会社

はじめに

このたびはハンドヘルドレーザスキャナ
ＰＤＣ－８１７をお買い上げいただきまして
ありがとうございます。

この取扱説明書をご使用前に
必ずお読みください。

もくじ

本書の読みかた

■本書の内容

第一章　お使いになる前に
本機をお使いになる前に確認していただきたいことを説明しています。

第二章　本機の取り扱い
本機の具体的な取り扱い方法について説明しています。

第三章　本機の仕様
本機の仕様やトラブルが起こったときの対処方法を説明しています。

付録　セットアップバーコードメニュー
本機のセットアップ用のバーコードメニューを添付しています。

■表記上のお約束

 注意　本機を使用する際に注意していただきたいことを説明しています。

 メモ　本機を使用する際の補足的なことを説明しています。

第１章　お使いになる前に

梱包品の確認、本製品の特長、使用上の注意事項について説明しています。

１．１　梱包品の確認

　お買い求めになったパッケージには以下のものが梱包されています。お使いになる前に必ずご確認ください。なお梱包には万全を期しておりますが、万一不足品や破損品がありましたらお買い求めの販売店または弊社までご連絡ください。

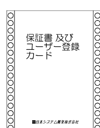
●ハンドヘルドレーザスキャナ



レーザースキャナ本体



取扱説明書（本書）



保証書およびユーザ登録カード

　本機をお使いになる前にユーザ登録カードに必要事項をご記入の上、弊社までご返送ください。今後のアフターサービスの対象とさせていただきます。

１．２　本製品の特長

本製品はバーコードラベルをレーザー光で読取ることができるバーコードスキャナ装置です。読み取ったデータはキーボードインターフェースにてホスト機器に転送することができます。

●初動の早い高速読取りレーザ
初動の早いレーザエンジンを使用。バーコードラベルを高速に読取ります。

●特別なソフトウェアは不要
ホスト機器へのデータ転送はキーボードインターフェースを使用するため専用のドライバーソフトや特別なアプリケーションソフトを必要としません。

●多種類のバーコードの読み取りが可能
実用に供されているＪＡＮ，ＩＴＦ，CODABAR，CODE39，CODE93,CODE128などに対応しており広範囲の用途に使用できます。

! 注意：本装置では２次元バーコードは読めません。

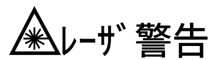
●動作状況をブザーとＬＥＤで表示
バーコードの読み取りや動作状況をブザーとＬＥＤで確認することができます。

! 注意：キーボードインターフェースでのデータ転送では確実にホスト機器へデータを転送できたかどうかを装置自身で確認できません。データ転送の最終的な確認はホスト機器の画面等で確認して下さい。

１．３　安全上の注意（必ずお守りください）

　ご使用になる人やその他の人への危害や財産への損害をあらかじめ防止するため、本製品のご使用の前に必ず本項の内容をよくお読みになり、必ずお守りくださるようお願いします。
　お読みになった後はいつでも見られるところに必ず保管してください。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を次の区分で説明しています。



この表示の欄は「レーザ光に関する警告文です。レーザ光にて、障害（失明など）を負う可能性が想定される」内容です。



この表示の欄は「損害を負う可能性または、物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を次の絵区分で説明しています。

この記号は、してはいけない禁止の行為であることを告げるもので、図の中に具体的な禁止内容が描かれているものがあります。

表示	意　味
	機械を分解したり、カバー類を取り外すことで感電などの傷害が起こる可能性がある場合、分解を禁止するための警告表示。
	特定の条件に於いて、機器の特定の場所をのぞき見ることでで傷害が起こる可能性がある場合、覗き込むことを禁止するための警告表示。

この記号は、行為を強制したり内容を告げるもので、図の中に具体的な指示内容が描かれています。

表示	意　味
	特定しないが、一般的な機器の取扱上で何らかの注意が必要で、人に何等かの危害または、機器に何等かの障害が起こる可能性があることを促す警告表示。文字と併せて使用します。
	故障により、人に何等かの危害または、機器に何等かの障害が起こる可能性がある場合、インターフェースケーブルをホストから抜くことを促すための警告表示。

レーザ 警告

	この装置を分解したり改造したりしないでください。発熱・火災・けが・レーザビームによる失明の原因となります。
	この装置はクラス２のレーザ光を使用しております。レンズなど光学機器にてビームをのぞき見ないで下さい。失明や障害の原因となります
	この装置はクラス２のレーザ光を使用しております。レーザ光出口よりビームをのぞきこまないようにして下さい。
	この装置はクラス２のレーザ光を使用しております。レーザ光を人に向けて放射しないで下さい。

⚠注意

	万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにホストに接続しているインターフェースケーブルを抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。
	万一、機器の内部に水などが入った場合は、すぐにホストに接続しているインターフェースケーブルを抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	万一、この機器を落としたり、機器のケースを破損した場合は、ホストの電源スイッチを切り、インターフェースケーブルを抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	インタフェースケーブルが傷んだら（芯線の露出，断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	インタフェースケーブルの上に重いものをのせたり、コードが機器の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。
	インタフェースケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。ケーブルが破損して、火災・感電の原因となります。
	小児には使用させないでください。
	直接日光のあたる所や炎天下の車内、火のそば、ストーブの前面など高温の場所に放置しないでください。

１．４　使用上の注意

本製品の性能を損なわずに正常に動作させるため、下記の事項に注意してください。

○本製品は、低いパワーの可視光レーザであるクラス２レーザ製品です。人体には無害で、目は嫌悪反応により保護されるものですが、レーザ光を直視したり、レンズや鏡等で覗き見たり、人体に向けると危険です。取扱いに十分注意願います。

○本製品は、精密な光学装置および電子装置を内蔵しておりますので、次のような点に注意して取り扱ってください。

・本製品には、過度のストレスを加えないでください。故障の原因になります。

・規定温湿度範囲内で使用してください。

・本製品は、防水性を有しておりません。ケース内に水、湯茶等をいれないでください。ケース内に水等が入った場合、性能が損なわれることがあります。

・本製品を清掃する場合は、できるだけ湿布で拭いてください。有機溶剤等を使用しますとケース材質やレーザー窓が変質し性能が低下することがあります。

・レーザ光出口のウィンドウは汚れないように取り扱ってください。手で触ったりしますと汚れ付き読取り性能が劣化します。汚れたときは市販のレンズ用の拭き取り布で拭き取ってください。

・レーザ光出口のウィンドウには異物を付着させないでください。光路が遮断されると読み取り性能が低下します。

○本装置が正常に動作するには、レーザスキャナとホストとのインターフェースが正しく設定されている事が必要です。動作異常の場合、確認してください。

○本装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（ＶＣＣＩ）の基準に基づくクラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境でも使用することができるようにしていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取扱いをして下さい。

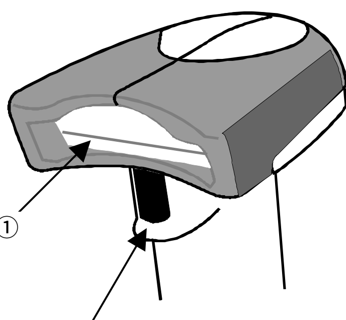
第２章　本機の取扱い

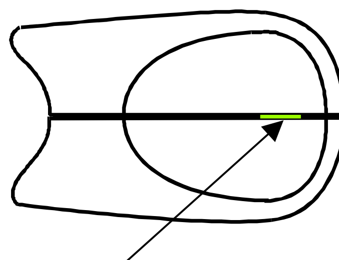
この章では本機の接続方法やバーコードの読ませかたなど具体的な取り扱い方法について説明しています。

２．１　各部の名前とはたらき

装置の各部の名前とはたらきを説明します。

レーザースキャナ





①	読取り口	バーコードの読取り口です。
②	読取りトリガスイッチ	トリガＯＮ時、バーコードの読取りを行います。
③	動作ＬＥＤ（緑）	正常読取り時に点灯、設定時は点滅します。

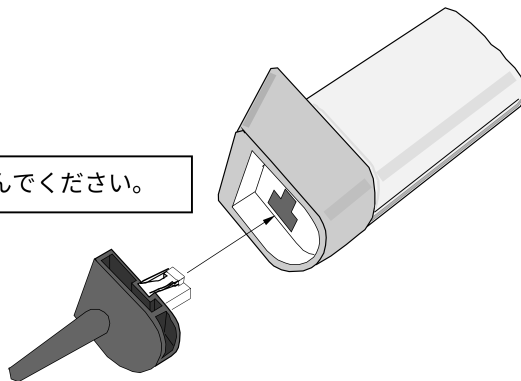
２．２　使用前の準備

装置間の接続と使用前の準備について説明します。

スキャナケーブルの接続

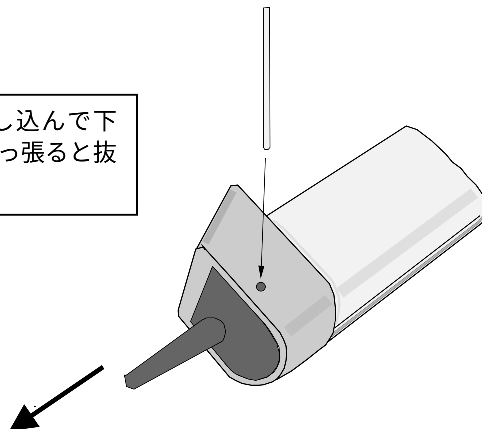
装置間の接続には、専用のケーブルをスキャナに接続します。ケーブルのモジュラコネクタ側をスキャナ底部に「カチッ」と音がするまで入れて下さい。

向きを合わせて差込んでください。



取り外すときは、クリップの先のようなもので側面にある穴に挿し込みコネクタのロックを外してケーブルを引き抜いて下さい。

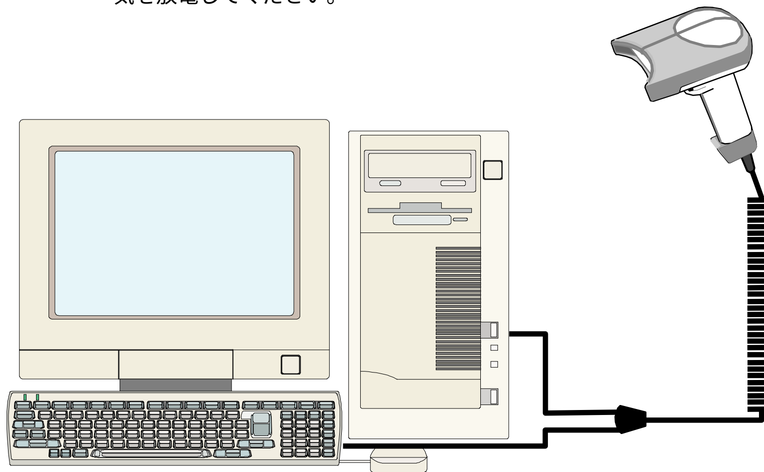
クリップの先は軽く押し込んで下さい。ケーブルを先に引っ張ると抜けにくくなります。



装置の接続

注意：装置の接続時にはパソコンの電源を切った状態で行ってください。

注意：装置の接続時には静電気に気をつけてください。あらかじめ手を金属物に触れて静電気を放電してください。



スキャナはパソコンとキーボードの間に接続されます。キーボードのケーブルをスキャナに接続されているケーブルのキーボードコネクタに接続し､片方のインターフェースケーブルをパソコンのキーボード入力コネクタに接続してください。

注意：ケーブルの接続にはコネクタの向きに注意してください。パソコンの種類によって上下位置が違っている場合があります。

メモ：ノートパソコンなどキーボードを必要としない場合は、キーボードケーブルを特に接続する必要はありません。

２．３　本機の使い方

本機の具体的な使い方を説明します。

電源の入れ方

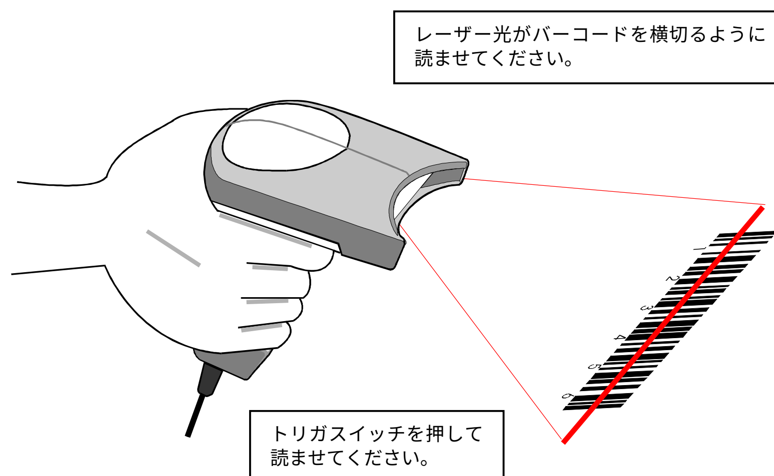
本機はパソコンからの電源を使用しています。よって、正常にパソコン、本機間がケーブルにて接続されていれば、パソコンの電源を入れることで本機の電源は入ります

注意：本機はバーコードデータをパソコンに送る装置です。本機単独では使用できませんのでパソコンの電源をいれてからご使用ください。

バーコードの読ませ方

バーコードを読ませるときは､スキャナのレーザ口をバーコードに平行にしてトリガスイッチを押してください。レーザ光が出ますのでバーコードを横切るようにして読ませて下さい。トリガスイッチはバーコードを読ませているあいだ押しつづけてください。

バーコードを読み取るとレーザは消灯し、読取り確認のブザー音とＬＥＤが点灯、データをホストへ転送します。



スキャナの設定

スキャナの設定はバーコードメニューにて行います。

設定開始バーコードを読み取ることにより設定できます。（セットアップバーコードメニューは末尾に付録としてついています。「付１セットアップ」を参照してください。）

 注意：設定時はスキャナのメニュー以外のバーコードを読ませないでください。動作不良になる恐れがあります。

 メモ：指定内容が重複した場合後から設定した内容が有効となります。

第３章　本機の仕様

本章は、本機の仕様やトラブルが起こったときの対処方法について説明しています。また、アフターサポートの連絡先も記載しています。本機の仕様を知りたいとき、またトラブルで困ったときにお読みください。

３．１　製品仕様

外形寸法	70（W）×107.4（D）×165（H）mm
重量	約２００ｇ（ケーブル類は除く）
定格電源	ＤＣ５Ｖ
使用電圧範囲	５．２５Ｖ～４．８５Ｖ
消費電流	読み取り時 １００ｍＡ
対応ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽ	ＩＢＭ互換機　日本語１０６（１０９）キーボード　対応
使用温度範囲	０～４０℃　結露、氷結のないこと
使用湿度範囲	２０～８５％ＲＨ　結露、氷結のないこと
保存温度範囲	－２０～７０℃　結露、氷結のないこと
保存湿度範囲	５～９０％ＲＨ　結露、氷結のないこと
読取コード	UPC/EAN/JAN-13/8　CODE39　CODE93　CODE128 CODABAR（NW-7）　ITF（INTERLEAVED2of5）　MSI/PLESSEY
最小分解能	０．１２７mm
光源	レーザ波長６８０ｎｍ
レーザクラス	ＣＤＲＨ ＣｌａｓｓⅡ
走査回数	４２スキャン／ｓｅｃ
読取り距離	４８ｃｍ（分解能０．５０８mm時）
アングル	48°
ピッチ	±６５°
スキュー	±５５°
読取り確認	ＬＥＤ　＆　ブザー

３．２　困ったときは

○パソコン本体がキーボードエラーを認識した。
→パソコンと本機が接続されていますか？ →ケーブルがマウス専用コネクタに接続されていませんか？

○文字がぬける
→文字間ディレイを長くしてみてください。 （末尾の付録セットアップバーコードメニューを参照願います。）

○大文字が小文字に、小文字が大文字に変わる。
→文字間ディレイを長くしてみてください。 （末尾の付録セットアップバーコードメニューを参照願います。）

○バーコードが読めない。
→本機が対応しているバーコードか確認してください。 （仕様を確認してください） →バーコードの印刷が薄い，汚れていると読みづらくなります。

○読み取りスイッチを押してもレーザ口から、レーザが出ない
→パソコンと本機が接続されていますか？ →パソコンの電源が入っていますか？

お問い合わせ

日本システム開発株式会社

本社
〒５５０－００１３　大阪市西区新町１丁目７番２０号 システムギア大阪ビル
TEL　06-4391-9880　　FAX　06-4391-9878

営業拠点

東京
〒１０５－００１４　東京都港区芝１丁目１０番１１号 コスモ金杉橋２Ｆ
TEL　03-5730-1200　　FAX　03-5730-1201

名古屋
〒４６０－０００２　名古屋市中区丸の内２丁目１０番１９号 市川ビル４Ｆ
TEL　052-221-9388　　FAX　052-212-4403

大阪
〒５５０－００１３　大阪市西区新町１丁目７番２０号 システムギア大阪ビル
TEL　06-4391-9881　　FAX　06-4391-9879

宝塚
〒６６５－００４５　宝塚市光明町３０番１２号
TEL　0797-74-2201　　FAX　0797-74-2211

福岡
〒８１２－００１４　福岡市博多区比恵町３番１７号 フェイズイン博多ビル２Ｆ
TEL　092-432-2130　　FAX　092-432-2136

技術的なお問い合わせは
サポートデスク　Ｅ－ＭＡＩＬ：　support@nsd-inc.co.jp

最新情報はインターネットをご覧ください
http://www.systemgear.com

付録　セットアップメニューバーコード

付１　セットアップ

　セットアップ機能でパソコンへのデータ転送に自動で改行キーを付加する，必要な桁だけ表示するなどの設定ができます。
　　[] 印は工場出荷設定です。

セットアップの方法
　以下の手順で操作してください。

手順１：セットアップ開始用バーコードを読ませてください。（ブザーが鳴りＬＥＤが点滅します。）
手順２：設定したい機能のバーコードをバーコードメニューの中から１つづつ選んでスキャナで読ませてください。
手順３：電源が落とされても設定が消えないように保存部書き込み設定“ ９００１ ”のバーコードを読ませてください。
手順４：セットアップ操作を終了させるためセットアップ終了の“ ９９９９ ”のバーコードを読ませてください。（ブザーが鳴りＬＥＤ点滅が終わります。）

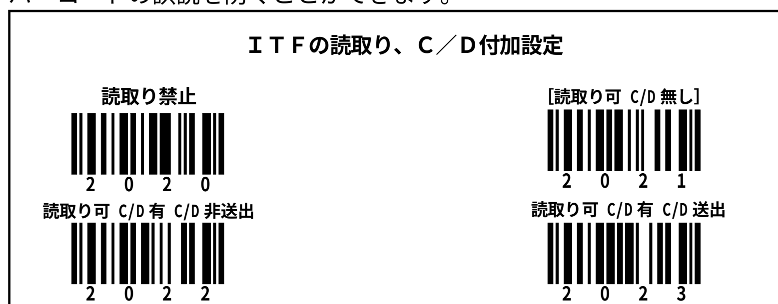

注意：手順３の保存部書き込み設定を行わなければ電源を切ったとき設定された内容は破棄されます。

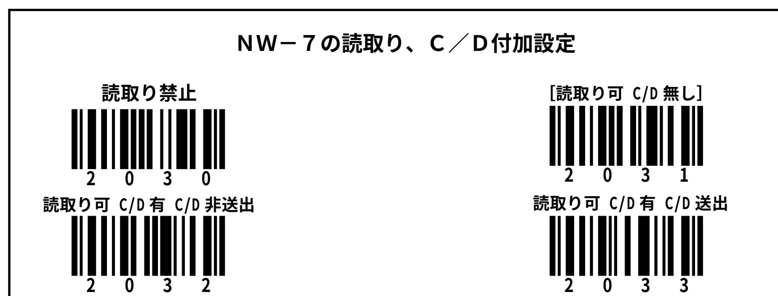

メモ：バーコードを読ませるかわりにキーボードからコードを入力することもできます。ノートパソコン接続時、パソコン側のキーボードからの入力はできません。

■セットアップ開始
各種セットアップの開始時に使用します。



■各コード読み取り 及び Ｃ／Ｄコード付加
バーコードの種類ごとに読み取り可能にするか禁止にするか設定できます。また、データの内容が正しいかどうかチェックできるＣ／Ｄ(ﾁｪｯｸﾃﾞｨｼﾞｯﾄ)コードをデータの後に付加し、バーコードの誤読を防ぐことができます。





ＣＯＤＥ３９の読取り、Ｃ／Ｄ付加設定

読取り禁止

2 0 4 0

[読取り可 C/D 無し]

2 0 4 1

読取り可 C/D 有 C/D 非送出

2 0 4 2

読取り可 C/D 有 C/D 送出

2 0 4 3

ＪＡＮ／ＥＡＮ／ＵＰＣの読取り、Ｃ／Ｄ付加設定

読取り禁止

2 0 5 0

読取り可 C/D 有 C/D 非送出
UPC-A は EAN-13 フォーマット出力

2 0 5 2

[読取り可 C/D 有 C/D 送出]
UPC-A は EAN-13 フォーマット出力

2 0 5 3

読取り可 C/D 有 C/D 非送出
UPC-A は UPC-A フォーマット出力

2 0 5 4

読取り可 C/D 有 C/D 送出
UPC-A は UPC-A フォーマット出力

2 0 5 5

ＣＯＤＥ９３の読取り設定

読取り禁止

2 0 6 0

[読取り可]

2 0 6 1

ＣＯＤＥ１２８の読取り設定

読取り禁止

2 0 7 0

[読取り可]

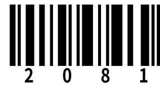
2 0 7 1

ＭＳＩ／Ｐｌｅｓｓｅｙの読取り設定

読取り禁止



［読取り可］



■先頭コード付加
任意のキャラクタをデータの前に一つだけ付加できます。

先頭コード付加設定

［無付加］



TEN KEY 改行



FULL KEY 改行



実行 KEY



任意データ付加



任意データ付加を選択した場合は“ ２５０４ ”のバーコードに引き続いて３桁のコードを入力します。以下のバーコードを使って読ませてください。

オプションコード







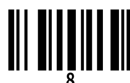














任意ｷｰコード

コード ＼ @	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
000+@		↑	↓	→	←	HOME			BS	TAB	ﾃﾝｷｰ改行			ﾌﾙｷｰ改行		
016+@												ESC				実行
032+@	SP	!	"	#	$	%	&	'	(	)	*	+	,	-	.	/
048+@	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
064+@	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
080+@	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[	\	]	^	_
096+@	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
112+@	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{	|	}	~	DEL
128+@																
144+@																
160+@	SP	。	「	」	、	・	ヲ	ァ	ィ	ゥ	ェ	ォ	ャ	ュ	ョ	ッ
176+@	ー	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ
192+@	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ
208+@	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ン	゛	゜
224+@	PF1	PF2	PF3	PF4	PF5	PF6	PF7	PF8	PF9	PF10	PF11	PF12	PF13	PF14	PF15	PF16
240+@	PF17	PF18	PF19	PF20	PF21	PF22	PF23	PF24								


メモ：ＰＦ１３～ＰＦ２４は、Ｓｈｉｆｔ＋ＰＦ１～ｓｈｉｆｔ＋ＰＦ１２を送信します。

■データタイプ付加
入力データの先頭に‘Ｂ’を付加します。

データタイプ付加設定

[無付加]
2970

付加
2971

■データ体系コード付加桁数付加

データの種別を入力したデータの前に付加することができます。

データ体系付加設定

[無付加]	付加
2770	2771

ＪＡＮ，ＥＡＮ，ＵＰＣ　→Ｗ
ＩＴＦ　→Ｉ
ＣＯＤＡＢＡＲ（ＮＷ－７）→Ｓ
ＣＯＤＥ３９　→３
ＣＯＤＥ９３　→Ｌ
ＣＯＤＥ１２８　→Ｋ
ＭＳＩ／Ｐｌｅｓｓｅｙ　→Ｍ

■入力データ桁数付加

入力したデータの桁数を付加することができます。桁数は、００１～２５５の３桁です。

入力データ桁数付加設定

[無付加]	付加
2870	2871

■スタート／ストップ付加

CODE39 のスタート・ストップコード付加設定

[無付加]	付加
2100	2101

NW-7 のスタート・ストップコード付加設定

無付加	[a/b/c/d 付加]	A/B/C/D 付加
2110	2111	2112

■後頭コード付加設定
任意のキャラクタをデータの後に一つだけ付加できます。

後頭コード付加設定

［無付加］ 2 7 0 0	FULL KEY 改行 2 7 0 1	TEN KEY 改行 2 7 0 2
実行 KEY 2 7 0 3		任意データ付加 2 7 0 4

任意データ付加を選択した場合は“ ２７０４ ”のバーコードに引き続いて３桁のコードを入力します。以下のバーコードを使って読ませてください。

オプションコード

0	1	2
3	4	5
6	7	8
9		

任意ｷｰコード

@ / コード	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
000+@		↑	↓	→	←	HOME			BS	TAB	ﾃﾝｷｰ改行			ﾌﾙｷｰ改行		
016+@												ESC				実行
032+@	SP	!	"	#	$	%	&	'	(	)	*	+	,	-	.	/
048+@	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
064+@	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
080+@	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[	\	]	^	_
096+@	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
112+@	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{	|	}	~	DEL
128+@																
144+@																
160+@	SP	。	「	」	、	・	ヲ	ァ	ィ	ゥ	ェ	ォ	ャ	ュ	ョ	ッ
176+@	ー	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ
192+@	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ
208+@	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ン	゛	゜
224+@	PF1	PF2	PF3	PF4	PF5	PF6	PF7	PF8	PF9	PF10	PF11	PF12	PF13	PF14	PF15	PF16
240+@	PF17	PF18	PF19	PF20	PF21	PF22	PF23	PF24								

 メモ：ＰＦ１３～ＰＦ２４は、Ｓｈｉｆｔ＋ＰＦ１～ｓｈｉｆｔ＋ＰＦ１２を送信します。

■桁数制限
読取りしたデータの送出先頭桁・送出桁数を設定することにより必要なデータだけを切り取ってパソコンに送出することができます。また、本設定には全てオプションコード（３桁）設定が必要です。

桁数制限設定

読取り許可データ最小桁数	送出先頭桁	送出桁数
2900	2901	2902

オプションコード

0	1	2
3	4	5
6	7	8
9		

【参　考】◎桁数制限コードの設定に続いて、オプションコードを３桁設定入力してください。

■読み取り確認ブザー設定

ブザー鳴動設定

[鳴動有り]	鳴動なし
8 0 0 0	8 0 0 1

■伝送時間調整設定（文字間ディレイ）
パソコンに送信する速度を変更します。１０ｍｓから１０ｍｓ刻みで変更できます。

伝送時間調整設定

[10ms] 1 0 0 0	20ms 1 0 0 1	30ms 1 0 0 2
40ms 1 0 0 3	50ms 1 0 0 4	60ms 1 0 0 5
70ms 1 0 0 6	80ms 1 0 0 7	90ms 1 0 0 8
100ms 1 0 0 9		

■キーボードインターフェース用セットアップ

CAPSLOCK監視設定

[監視有] 1 1 1 0	監視無 (常時 CAPSLOCK ON) 1 1 1 1	監視無 (常時 CAPSLOCK OFF) 1 1 1 2

ローマ字モード監視設定

監視有 (電源 ON 時ローマ字モード ON) 1 1 2 0	監視無 (電源 ON 時ローマ字モード OFF) 1 1 2 1
監視無 (常時ローマ字モード ON) 1 1 2 2	[監視無] (常時ローマ字モード OFF) 1 1 2 3

NUM LOCK 監視設定

監視有 1 1 3 0	監視無 (常時 NUM LOCK ON) 1 1 3 1
監視無 (常時 NUM LOCK OFF) 1 1 3 2	[監視無] (FULL キー側ﾃﾞｰﾀ出力) 1 1 3 3

MS-Windows 設定

ＭＳ－ＤＯＳ

1 1 4 0

Windows3.1 使用

1 1 4 2

[Windows95 使用]
106 日本語（A01）キーボード

1 1 4 3

Windows95 使用
106 日本語（A01）キーボード（CTRL+英数）

1 1 4 4

キーボード接続設定

[監視有]

1 1 8 0

監視無（キーボード接続有り）

1 1 8 5

出力文字の大小監視設定

[監視有]

1 4 0 0

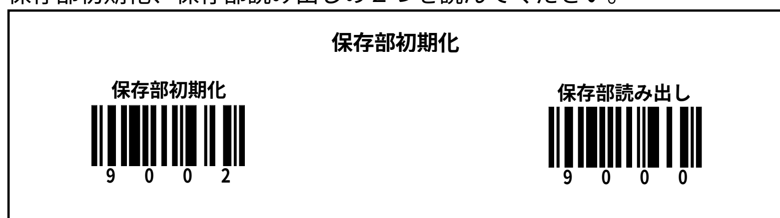
監視有
(全て小文字出力)

1 4 0 1

監視有
(全て大文字出力)

1 4 0 2

■初期化
設定をデフォルト（初期設定）に戻す時に使用します。
保存部初期化、保存部読み出しの２つを読んでください。



■書き込み
各設定したセットアップを保存します。



■セットアップ内容表示
セットアップ内容の表示をします。



■セットアップ終了
セットアップモードを終了します。



付２　一般機能設定

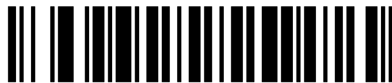
　バーコード種別に関わらず一般的な機能について設定するバーコードメニューです。付１のセットアップとは別機能となっているため、セットアップと機能設定は別々に設定願います。付２の設定はセット／エンドのバーコードを読ませたあと各設定を行い最後にもう一度セット／エンドのバーコードを読ませて下さい。セットされたバーコードは、電源を落としても記憶されます。。

　［］印は工場出荷設定です。

■機能設定開始／終了

機能設定の開始時と終了時に使用します。

セット／エンド

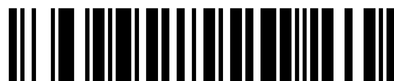
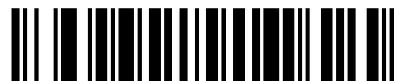




注意：一般機能の設定は、各種セットアップと別機能となっています。これらの項目は、付１の初期化などには左右されません。

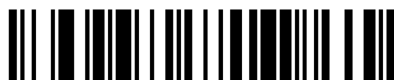
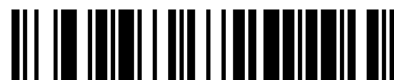
■音量変更

ブザーの音量を普通または大に設定できます。

[普通]	大きい
	

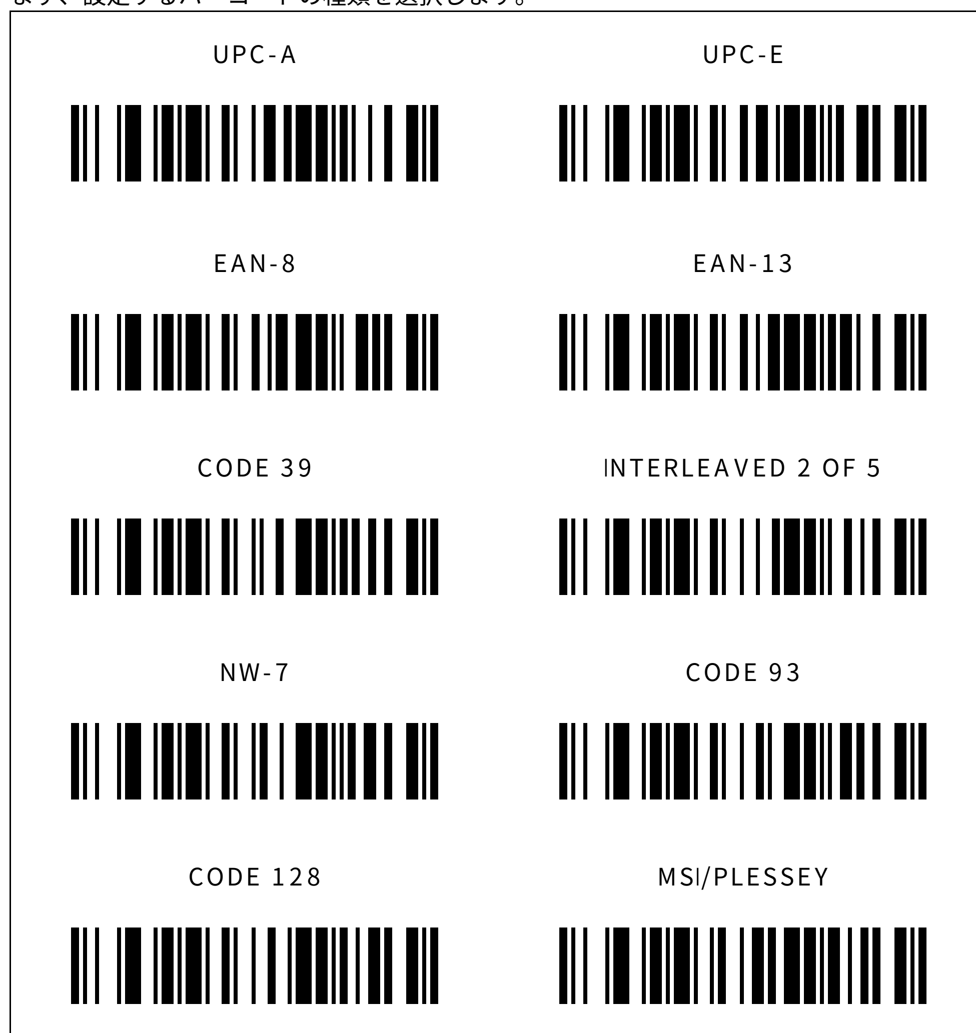
■オートセンスモード（オートスタンド）

オートセンスモードをイネーブルにするとスキャナをスタンドに置いたときにハンドフリーで読ませることができます。

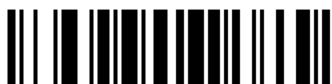
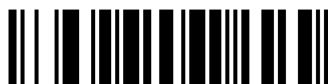
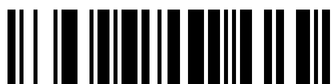
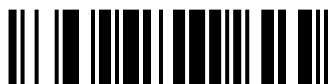
イネーブル	[ディセーブル]
	

■読取り一致回数
信頼性の低いバーコードには一致回数を多くすることでより正確な読取り確認ができます。

まず、設定するバーコードの種類を選択します。



次に、読取り一致回数を設定します。

1 回 	[2 回] 
3 回 	4 回 

付３　サンプルバーコード











Interleaved 2 of 5 C / D なし



nterleaved 2 of 5 C / D あり



Codabar (NW - 7) C / D なし



Codabar (NW - 7) C / D あり



Code - 39 C / D なし



Code - 39 C / D あり



Code - 128

ご注意
　①　本書の内容の一部、または全部を無断で複製・転載することはおやめください。
　②　本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
　③　お客様が機器を使用されました結果につきましては、責任を負いかねることがございますのでご了承下さい。

ＰＤＣ－８１７　　取扱説明書

１９９８年１２月　１日　初版発行
２００３年１１月２８日　３α版発行

発行　日本システム開発株式会社

〒665-0045　兵庫県宝塚市光明町３０番１２号
TEL　0797-74-2205　　FAX　0797-74-2212

（BK0013A01-3α）

